



熊本市・ハイデルベルク市青少年交流 受入事業報告書

期間:令和元年(2019年)7月28日(日)~8月6日(火)



目次

1. ハイデルベルク市との国際交流について	1
2. 2019年度熊本市・ハイデルベルク市青少年交流訪問団受入事業の概要	2
3. 2019年度熊本市・ハイデルベルク市青少年交流受入スケジュール	3
4. 団員報告書	4

1. ハイデルベルク市との国際交流について

《ハイデルベルク市の概要》

「古城と大学の街」ハイデルベルクは、13世紀に建てられたといわれる「古城」、ネッカー川沿いに広がる「旧市街」、対岸の「哲学の道」といった名所を擁し、多くの観光客が訪れる国際観光都市である。

14世紀にドイツ最古の大学として創設されたハイデルベルク大学をはじめとしてバイオ研究や、医療関係の多くの研究機関が集まる研究都市でもある。現在では最新のテクノロジーに支えられた、印刷機械や電気技術、金属、化学製品製造などの産業も盛んである。



《交流の経緯》

昭和39年(1964年)、当時の石坂市長が西独政府の招きで全国市長会訪問団の団長として訪問したのを契機に、大学と城、そして市内を流れるネッカー河と多くの類似点を有する両市の友好の歴史が始まった。以後、様々な分野にわたる民間団体同士の交流の他、平成元年(1989年)の市制100周年記念式典へのハイデルベルク市長や芸能グループの来熊、平成2年(1990年)、共通の課題である地下水保全をテーマとした水資源国際会議へのハイデルベルク市議会議員の参加等、両市友好の機運が高まった。平成4年(1992年)5月19日、「平和と環境に対する共通の責任」を理念とする友好都市協定が調印された。また、同年9月14日には熊本市において再調印が行われるとともに、地球規模の環境問題をテーマとしたイベントを開催し、さらに広い分野に及ぶ活発な交流が展開されるようになった。



《青少年交流事業》

平成4年(1992年)5月、両市間の友好都市締結に伴い、教育分野の相互交流として青少年の隔年相互交流を実施することが決定した。同年から中学生のスポーツ交流を開始、翌平成5年から高校生による青少年交流を開始した。平成11年(1999年)から青少年交流とスポーツ交流を一本化して、高校生の派遣と受入を相互に行っている。

平成29年(2017年)は震災の影響により休止したが、平成30年(2018年)に熊本市からの派遣を再開し、令和元年(2019年)は受入を実施した。

2. 2019年度熊本市・ハイデルベルク市青少年交流訪問団受入事業の概要

(1)目的

熊本市の友好都市であるドイツ連邦共和国・ハイデルベルク市との友好交流の一環として、両市の青少年の相互交流を定期的の実施し、交流プログラムやホームステイ等を通して、本市青少年の異文化に対する理解を深めるとともに、広い国際視野を身に付けた青少年の育成を図ることを目的とする。

(2)事業概要

- ・受入期間 令和元年（2019年）7月28日（日）～8月6日（火）9泊10日
- ・団員構成 青少年交流団員15名（※平成30年度選出した高校生）・役職員
- ・交流活動内容 ホームステイによる日本の生活文化体験、教育施設等の視察、阿蘇や天草等自然体験活動、交流会など

(3)団員資格（※平成30年度募集時内容を掲載。）

団員については、次の要件を満たすものとする。なお、2019年度ハイデルベルク市青少年交流団の受入については、原則として本団員により編成する。

- ・原則として、熊本市内に居住または通学する高等学校またはそれに準ずる学校の1、2年生および市立総合ビジネス専門学校1年生に在籍する者
- ・保護者の同意及び学校長の承諾を受けた者
- ・過去に市費による海外派遣を経験していない者
- ・事前・事後研修に必ず出席できる者（事前3回・事後1回）
- ・平成31年度（2019年度）にハイデルベルク市青少年交流訪問団熊本市受入（2019年の夏期休業期間中10日間程度）に参加でき、ホストファミリーとしてハイデルベルク市団員の受け入れができる者

(4)事前研修等の開催

- ・結団式・事前研修①（5月25日（土））
受入プログラム内容の説明／ホームステイ受け入れにあたってのガイダンス
- ・事前研修②（6月22日（土））
ドイツ語／くまもと観光ガイド～チャレンジ！くまもと名物を英語で紹介～
- ・事前研修③（7月7日（日））
くまもと観光ガイド（英語）／ホームステイイングリッシュ
- ・事前研修④（7月21日（日））
発表「私の好きな熊本」／セレモニー準備
- ・事後研修（8月18日（日））
2年間の振り返り／報告発表

3. 2019年度熊本市・ハイデルベルク市青少年交流受入スケジュール

日次	月日	場所	スケジュール
1	7月28日 (日)	福岡空港 熊本	大韓航空789便にて福岡空港到着。 専用バスにて福岡空港出発、熊本へ。 国際交流会館着。 歓迎式。 解散後、それぞれホームステイ先へ。 * 役職員は、宿泊ホテルへ移動。
2	7月29日 (月)	熊本	国際交流会館集合。 城彩苑・熊本城見学。熊本のホストがガイド。 昼食は国際交流会館にて。 水前寺成趣園散策。* 観光ガイドとともに。 解散。
3	7月30日 (火)	熊本	国際交流会館集合・出発。 熊本博物館見学。 ゆめタウンはませんにて昼食。 くまもと工芸会館(肥後まり・肥後こま作り体験)。 国際交流会館帰着。解散。
4	7月31日 (水)	熊本	国際交流会館集合・出発。 熊本市長表敬・市議会議長表敬。 昼食は、国際交流会館。 必由館高校到着。 和装文化部との交流(着物着付け・くるみボタン作り)。 書道部との交流会(書道体験)。 和スイーツ体験(フルーツ大福と緑茶)。 終了後、解散。
5	8月1日 (木)	熊本 阿蘇 熊本	国際交流会館集合・出発。 道の駅阿蘇着。 牧野草原トレイルウォーク&ネイチャーアクティビティ。 草千里見学。 国際交流会館帰着、解散。
6	8月2日 (金)	熊本 水俣 熊本	国際交流会館集合・出発。 世界遺産・三角西港(休憩)・ イルカ・ウォッチング。 昼食。 世界遺産・崎津集落見学 * 英語・日本語ガイドとともに。 国際交流会館帰着、解散。
7	8月3日 (土)	熊本	ホストファミリーの日。
8	8月4日 (日)	熊本	ホストファミリーの日。 フェアウェルパーティー。アークホテル熊本城前にて。
9	8月5日 (月)	熊本 熊本	国際交流会館集合。 山鹿八千代座見学と山鹿灯籠踊り観賞。 山鹿散策(灯籠博物館、足湯) 国際交流会館にもどり解散。
10	8月6日 (火)	熊本 福岡	国際交流会館集合。 福岡空港へ向け出発。 福岡空港到着。搭乗手続き、出国審査。 大韓航空788便にて出発。

4. 団員報告書



歓迎会



Tさん（高2・男）

昨年、ドイツに行ったときは日常でのコミュニケーションが上手く取れずにいて、何となく言葉が通じていた様だったので、少し勿体なさを感じて日本に帰国しました。だから今年の受け入れ事業では、自ら積極的に会話をする心を心がけました。また、日本、熊本の文化と一緒に触れることができ、改めて自国の良さも知ることができました。日常あたりまえだった事が、海外の文化では特別な事なのだと感じました。

会話ができるようになり、英語で話すことに楽しさを感じる様になった事で、自分の中の将来の目標にも変化がありました。受け入れ事業が始まる前から英語に関する資格取得の為に色々と調べ学習して来ました。昨年ホームステイに行ったことがきっかけで今まで嫌いだった英語が好きになり、悩んでいた進路選択も少しだけ楽になりました。

この2年間は僕にとってのターニングポイントだと思います。今後は、進学のためのオープンキャンパス等に積極的に参加し、高校生としての残り一年半を目標達成のための有意義な時間にしたいと思っています。



肥後こま作り体験

Nさん（高2・男）

去年の夏、ハイデルベルクでホームステイをした時、英語力に自信のない私はごによごよと喋るばかりでなかなか自分の思いを伝えることができませんでした。しかし、思い切ってジェスチャーや身振り手振りで表現するなど、コミュニケーションの取り方を工夫した結果、徐々に打ち解けることができました。言葉が完全に通じるわけではない異文化の人々とコミュニケーションを取るためには、思い切りや大胆

さが大切なんだと身をもって感じました。

そして今年は、ホストファミリーとしてパートナーを迎え入れました。去年、自分の英語を話す力のなさに気づき1年間勉強してきたので、会話の面で困ることはほとんどありませんでした。また、パートナーと過ごしているうちに様々な発見がありました。なんで月とウサギの模様が一緒に描かれているの？と、普段日本で暮らしている自分では、疑問に思わないようなことも、どんどん質問してくれて、外からの日本の見え方がとても新鮮でした。それと同時に、自分の日本のことについての知識不足も痛感しました。



Sさん（高2・女）

今回の交流を通して感じたのは、「もてなす」ことの難しさだった。それは昨年のように10日間英語で生活することよりも遥かに難しく感じた。昨年の場合、分からないことは尋ねれば、周りが分かるまで丁寧に教えてくれたが、今回は自分が相手に理解してもらえるように英語で説明しなくてはならない。パートナーは

私よりもずっと英語が上手ではあるが、食べ物や動物などものの名前ではたまに英語でも通じない時があった。ただ辞書を引けばいいというわけではなく、言葉をうまく言い換え、きちんと伝わったかひとつひとつ確認することが必要だと感じた。

私は、国際交流は相手の国や文化を知ることができる機会だと考えてきたが、それ以上に自分の国や文化、自分自身を知ることができる経験なのだと思うようになった。この二年間、研修や交流を通して、私は自分が見ていた熊本がほんの一部に過ぎなかったことに気づき、衝撃を受けた。また、パートナーたちが異なる視点から投げかけてくる素朴な疑問は、自分たちの「当たり前」を覆し、自分を見直すきっかけを与えてくれた。一度異文化にぶつかり、またハイデルベルク市の美しさを体感したからこそ、自分の故郷がいかに魅力的な場所であるかを知ることができた。一層熊本が好きになった。

Tさん（高2・女）

私のパートナーはすごく可愛らしくて優しいので、接した私の家族や親戚はみんなパートナーのことを大好きです。母や祖母は全く英語が話せないのですが、そんな母と祖母の日本語と英単語が入り交じった言葉にもしっかり耳を傾けて、会話をしようと試みてくれました。英語が上手く話せなくても、話したいという気持ちが伝われば会話は成り立つのだと思いました。





阿蘇牧野草原トレイル

Tさん（高2・女）

ホストファミリーとなり、両親は英語が苦手、話せるのが家で私しかないという状況。迎え入れる前は不安で仕方ありませんでした。しかし（昨年、ハイデルベルクに派遣でホームステイしてから）1年間会っていなかったものの、初日からスムーズに会話できていました。また、自分から話題を振ることも多くなりました

た。英語力が去年より上がっていると実感しました。

この2年間を通して、私は語学力やコミュニケーション力がつき、人前で英語を話すことへの恥ずかしさをなくすことが出来ました。1年間でなく2年にわたって国際交流が出来たことで、より大きな成長をすることが出来たと思います。私の将来の夢は、外国と密接に関わる職業です。この国際交流で学んだことを生かし、将来の夢へ繋げて行きたいと思います。この交流事業に参加し、ドイツに生涯の友人を持たれたことを誇りに思います。

Nさん（高3・男）

私はハイデルベルクで温かくファミリーとして迎え入れてもらい幸せな時間を過ごさせてもらったので、今度は私がパートナー「熊本に来てよかった！」と思えるようなおもてなしをして、「また来たい!」と思えるような案内をしなければいけないなと思い、臨みました。

家に迎えいれるとまず、私の父、妹、祖母の紹介をしました。すると、パートナーは少しぎこちない日本語ではあったけれどはっきりと「OOOOです。どうぞよろしく。」と自己紹介をしてくれました。日本に興味を持ち、勉強をして私たちとのつながりを強くしようという姿勢が嬉しかったです。

